



## 第57回卒業証書授与式 3月1日（火）

和歌山県誕生150年となる記念すべき、節目の年に卒業される「第57期卒業生」の皆さん、ご卒業おめでとうございます。システム化学科37名、電気科35名、機械科73名、計145名に揚村典生学校長から卒業証書が授与されました。学校長の式辞の中で、「コロナ禍において誰もが経験したことない厳しい環境に置かれ、『質実剛健・勤労愛好・明朗闊達』の校訓のもと、専門知識や技能、技術をしっかり学び、ものづくりや資格などに挑戦し、部活動でも自ら鍛え、立派に成長されました。」と成長を喜ばれ、また、心に留め置いてほしい言葉として、「『時間の使い方は、そのまま、命の使い方、置かれたところで咲いてください』という渡辺和子著の『置かれた場所で咲きなさい』からの話があり、今後、『いくつものこんなはずじゃなかった』と思う時でも、その状況下で『咲く』努力をしてほしい」。また、苦しい峠でも必ず、下り坂になります。人はどんな険しい峠でも乗り越えられる力を持っています。苦しさを乗り越えた人ほど強くなれるのです。」と述べられました。



## 県立高校合格発表 3月17日（木）・合格者説明会 18日（金）

和歌山県立高校入試の合格発表が17日、各校で一斉にありました。10時の発表に合わせて体育館前に集まった受験生たちは、自分の番号を見つけると、歓声を上げ、喜び合いました。また、新型コロナウイルス感染症防止のため県教育委員会の専用ホームページでも、合格発表が行われました。





## ✦ 「防災意識を高める啓発活動」 橋本警察署

「東日本大震災」の発生から今年の3月11日で11年を迎えるのを前に、全国の警察署等で「防災意識を高める啓発活動」が実施されました。橋本署管内の7ヶ所を会場として、啓発活動が行われ、その内の1ヶ所に、本校図書館が選ばれ3月4日～14日の10日間、実施しました。「被災直後の様子」や「全国各地で過去に起きた災害の現場」をとらえた写真の展示の他、津波や土砂が住宅地を襲った様子、東日本大震災（2011年）や紀伊半島大水害（2011年）、令和3年熱海市伊豆山土石流災害などの被災地で、県警の警察災害派遣隊の活動の様子がわかる写真が展示されました。

写真展示を見て、システム化学科2年の中田圭亮くんは、「東日本大震災の発生時は、自分は6歳で、テレビなどで被災直後のニュースを見た記憶があり、改めて、今回の写真展示を見て、防災について考えるキッカケとなり、防災意識が高まった」と語ってくれました。



## ✦ 出前講座「和歌山電業協会」3月15日

和歌山電業協会主催の「出前講座」が電気科1・2年生を対象に開催されました。「教えて！電気工事会社さん」のテーマで行われ、講師は、電気工事会社の社長さんたちが、直接、p生の声で説明がなされ、生徒たちは、熱心に話を聞いていました。生徒の感想の中で、「電気設備は、建物に命を吹き込むことだ」というのが一番印象に残りました。また、「ものづくりの楽しさを知ることができました。」と感動を伝えてくれました。



## ✦ 最新のマシニングセンターの導入

「マシニングセンター」は、ものづくりの現場で広く用いられています。最も重要な用途である金型の製造をはじめ、金属部品の加工になくてはならない存在です。特徴は、コンピュータ制御による「工具自動交換機能を備えている」ことです。

機械科の実習で活用され、最新の技術を学び、日本のものづくりの基本となる技術を習得し、実践的な技術者の育成を行なっていきます。



## ✦ 4月



5（火）離任式、8（金）始業式、11（月）入学式、12（火）対面式 など